

令和4年第1回北海道議会定例会 一般質問 開催状況 (環境生活部)

開催年月日 令和4年3月11日(金)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 答弁者 知事 鈴木 直道

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>六 女性の健康支援等について</p> <p>(二) 生理用品の公費設置について</p> <p>あれから40年、あれから40年が経ちました。昨年第2回定例会で、菊地葉子議員は、コロナ禍で生活が困窮する学生らが、生活必需品である生理用品を購入することができず、交換回数を減らしたり、トイレットペーパーを代用するなど深刻な状況が顕在化していると指摘して、設置を求めました。生理用品は、生命の誕生にとって不可欠な公衆衛生用品です。知事及び教育長はその認識をお持ちでしょうか。</p> <p>生理の貧困対策にとどまらず、女性の健康、公衆衛生の立場から、女子生徒などが安心して使用できる環境をつくるべく、歴史を前に進める時です。道内の設置状況をうかがうとともに、道が率先して、道立学校や道立施設などのトイレに、生理用品を公費で設置するよう、知事及び教育長の決断を求めますがいかがですか。</p>	<p>(知事)</p> <p>女性の方々に対する支援等についてではありますが、国の調査によると、道内においては、昨年7月現在、6市2町が防災備蓄品などを活用しながら、学校等への生理用品の支援を行っているとの承知をしております。</p> <p>また、道立施設では、女性相談援助センターや児童相談所で配付するなど、一律ではなく、それぞれの施設の設置目的や、利用される方の状況などに応じて、適宜、必要な配慮を行っているところであります。</p> <p>道としては、「生理の貧困」の背景にある困窮や家族の問題、健康に対する知識不足など、個々の事情に向き合い相談に応じながら、それをきっかけとし、継続的な支援へつなげることが重要と考えております。</p> <p>今後とも女性の方々が抱える様々な課題を把握し、市町村はもとより、地域における民間の支援機関の皆様とも連携を図るなど、困難を抱える女性の方々のニーズに応じた適切な対応に努めてまいります。</p>